

令和2年 第8回 座間市地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会 会議録

日時：令和2年11月10日 午後6時30分～午後8時

場所：サニープレイス多目的室

○	松山 斉久氏	○	佐久川 拓郎氏	○	吉田 勝重氏	○	根岸 このみ氏
欠	須藤 真行氏	○	富山 浩平氏	○	坂間 大介氏	○	大石 立子氏
○	吉永 耕子氏	○	石黒 宏昭氏	欠	筒井 すみ子氏	○	落合 純一氏
○	藤川 純子氏	○	石川 孔明氏	○	嶋崎 優氏	○	野中 京子氏
○	小林 孝行氏	○	後藤 準一氏	○	金子 光男氏	○	高間 千佐氏
○	川南 逸也氏	○	平原 良洋氏	○	松永 優太氏		
事務局：小林係長、板倉主事、植野主事補、福澤							

1 開会

2 活動報告（各子会議）

1）地域包括ケア会議（松永委員）

・第7回 地域包括ケア会議のご報告（主な内容：危機管理課との意見交換会を実施）

防災マップを活用しながら危機管理課と意見交換をした。具体的には、避難場所と避難所は扱いが違うという基本的なところから話が始まり、防災マップで水色の部分が浸水想定区域、ピンクの部分が土砂災害想定区域にあたるという話があった。相談を受ける際、このエリアに居る方には避難を促す必要があることを認識した。

年度内には新しく作成したものを全戸配布する予定とのこと。災害時に情報キャッチが早い世帯と遅い世帯があり、そういう方をどうしたらよいか、また逃げられないという人に限って準備の時間がないという現状があるということが把握できた。防災マップの状況を通し、風水害に関して、避難の状況は包括や委員でも把握していなかったため情報交換をして意見を交わせたのは大きな成果であったと思う。兵庫県ではケアプランに災害時の避難情報や計画を明記し担当者会議で共有するという取り組みをしていることも知ることができた。

知らなかった情報を共有し、一般の方への周知が課題である。今後ケアマネ、民生委員、自治会、事業所等いろいろな人を交えて危機管理課の実情を聞く機会を作ればと考えている。

2）在宅医療推進会議

・第7回 在宅医療連携推進協議会からのご報告（事務局）

在宅医療・介護連携推進事業の手引きを参考に、医療と介護の“連携”が求められる4つの場面（日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り）をイメージして子会議で意見を出して頂いた。市の目指すべき姿として、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築するために、頂いた意見をもとに、どの課題に対し、どのように連携を進めてい

くか子会議で検討していきたい。

・座間市地域在宅医療・介護連携支援室からの活動報告（嶋崎委員）

9月18日にハーモニーホールで実施したリモート研修会について、ワーキンググループのメンバーで反省会を行い、次年度リモート研修会をどう位置付けするかについて話をした。第2回が多職種連携研修会についてワーキング会議を実施し、一昨年入院時情報提供書を作成したが、2年経過したため近隣病院に声をかけ、ケアマネと病院関係のスタッフとの顔の見える関係作りを計画。今週13日金曜日第2回のワーキングを予定している。

前回の10月から今月までに4件の相談があった。相談内容は医療機関への介護事業についての周知が少ないのではというご意見があったようで、来年度2月の医療機関向けのアンケートでプラスの項目を考えている。医師がケアマネの提出するケアプランや担当者会議等についてどの程度把握しているかということを確認する項目を追加する予定。

（藤川委員）

医療系サービスを利用している方のケアプランを主治医に提出し、その際ご意見がありましたらご連絡下さいと添付しても返信はない。訪問診療の場合は初回往診時に直接渡している。見ていない可能性もあるが、方針や実際に利用するサービス内容をお伝えしている。訪問診療の方が比較的連携しやすいという印象はある。

（松山委員）

ケアプランに対しては、対象者の方を非常に細かく評価されて、それに対する問題点、解決策、本当に細かく評価されていると感心している。医療側から適切なアドバイス等できればいいが、患者自体の把握が今一つだったりすることもあり、逆にその情報を見て参考になることが多い。会議を通した評価や具体的な問題点に対し、接することができる機会があればもっと生かされるのではと感じる。

（石川委員）

先生方からケアプランについてリアクションが返ってくるということはほぼない。指示通りであることの確認や、全員に対し指示内容を把握できていないということもあって目を通だけで終わってしまっている可能性は高い。

（後藤委員）

今後支援室が行うアンケート結果でどの様な話になるか、また課題が出てくるかどうかといったところに注目していく。

・介護事業者設立準備ワーキンググループ活動報告（小林委員）

9月17日と10月29日に介護事業者連絡会の設立準備に関する話し合いを行い、経過と今後の方向性の着地点を共有した。デイサービスなどの事業者連絡会の準備検討については、大規模・地域密着などの連絡会の設立の方からもう一度考え直していく方針となった。

入所系の民間施設の情報交換については、12月10日18:00~20:00の予定でいくつかの施設とオンラインミーティングを行う。社協にZOOMを開設し、各事業者が参加するという想定。そもそもZOOMの環境が各施設にあるのかというリサーチから行っている。オンライン会議では、趣旨説明と介護保険課に夜間対応の書式統一についての話をしてもらう、今後の動きについてという内容を2時間のなかで行う予定。(介護保険課の話に関しては計画段階で依頼していない)

病院ソーシャルワーカーの連絡会については、病院から在宅へのつなぎ方と往診医との接点の作り方について交通整理が出来たらと思っている。

その他

- ・「新型コロナウイルス感染予防のために」配布(事務局)
- ・座間市認知症施策推進会議での話題について

(後藤委員)

認知症や精神疾患について、精神科への入院でとても困っているという話があった。皆さんの中でも精神科の入院のケースでお困りのケースがあったら教えてほしい。

(藤川委員)

認知症が他の方に迷惑をかけてしまうというレベルの方で、サービス利用を断られてしまうというケースがある。サービス利用には薬の調節が必要なため、すぐ診てもらえる医療機関を探す。自傷他害だとサービス利用の拒否は仕方ないが、本人はもとより家族が困ってしまうのが現状である。

(後藤委員)

ケアマネや包括職員も個々に知っている情報にばらつきがあり、何かサポートしてくれる制度があるといいなという話は聞く。支援室ではどうか?

(野中委員)

以前報告したが、厚木保健福祉事務所から座間市内在住の46歳男性の相談があった。46歳という年齢で、介護保険との結びつきが確認できない状態で、命に係わる状況だったため包括に連絡したが、包括より生活援護課に連絡した方がいいということで、生活援護課に繋いだ。精神疾患か認知症なのかは不明である。

(後藤委員)

今後このような課題に対して特に精神科に対してというところで、方向性や今現在課題を持っているか。

(島崎委員)

9月6日に手引きの改正があり、看取りや認知症についても連携の一つとして位置づけるよう示されたため、今後は認知症の人の入院できる病院の調査等も事業の範疇に入り、今後の流れとしては認知症や看取りも調査対象になる。支援室はアンケートをとって調査をして、調査報告をこちらの会議に出して、検討してもらうという流れの部署で、あくま

で連携をするための支援をする場所。認知症に関しても介護保険課の所轄なので、介護保険課の方から支援室で協力するようということになれば支援室でそういった話ができるようになると思う。

以上